

## 式辞

だれも足を踏み入れていない早朝の、本校の銀杏並木は、息をのむ美しきです。朝露にぬれた金色の絨毯が、朝日に照らされ、今日の日を喜ぶかのように、いつにも増して輝いております。

そんな佳き日に、栃木県立宇都宮中央女子高等学校創立九十周年記念式典を挙行いたしますにあたり、

栃木県教育委員会 教育委員 工藤敬子様、

栃木県議会文教警察委員会委員長 増山敬之様をはじめ、多数のご来賓、同窓生、保護者の皆様方のご臨席を賜り、盛大かつ厳肅に執り行うことができますことは、私どもにとりまして、誠に意義深く、この上のない慶びでございます。

さて、大正デモクラシーに伴う女子教育の気運の高まりと共に、子女を地元で学ばせたい、日本女性として、家庭婦人としてしっかり育てたいという熱い思いに基づいた運動が実を結び、女子に対する中等教育の場の拡大策として「宇都宮第二高等女学校」が開校したのは、一九二八年、昭和三年四月十三日のことでした。

当時県庁前にあった、栃木県女子師範学校内に併置開設され、新入生百六十三名を迎えての入学式が行われたそうです。校舎は一八八四年、明治十七年に建てられた古いもので、通風も、採光も悪く、運動場はとっても狭いものだったそうです。

しかし、たとえ粗末な教室、教材ではあったとしても、教師、生徒共に、未来を見据えた瞳は、きっと光り輝いていたに違いありません。

しかれども、本校創設の道のりは決して容易ではなかったことが、本校「創立三十三年誌」に詳しく記されています。

当時の世界的な経済恐慌が本県にも及び、儉約奨励の時代において高等女学校増設は贅沢きわまりないという意見が強く、第二高女設置は棚上げとなっていたそうです。

しかしながら、県民の要望は極めて強く、議論だけは継続され、実に四年半もの長きにわたり、第二高女についての論議が、県議会等でなされたそうです。そこでは、第二高女設置の是非にとどまらず、そもそも女子教育の必要性に始まり、知育偏重か人間教育に重きを置くのかなど、本校の在り方への深い議論がなされました。

これらの議論を通じ、「知育はもとより、女性としての人間教育に重点を置く」という本校教育の方向性が、本校関係者のみならず、ひろく県民の間で議論され確立されました。このことはまさに注目すべきことだと考えます。

これらの方向性は、時代とともに「しとやかさ」であったり、「良妻賢母」であったりと変遷はありましたが、確実に現在の本校の教育目標「よき社会人、よき職業人、よき家庭人」に継承されております。本校は、県民の議論により、県民の総意を受けて、今で言うところの目指す学校像や育てる生徒像が定められ、設立された、至って希有な学校に他ならないのです。

今生徒達は、先人が築き、先輩諸姉が育てた伝統を守り、学業はもちろんのこと、スポーツに文化活動にと伸び伸びと励み、またしっかりとした躰を基として礼儀正しく穏やかで思いやりのある心を培い、地域社会からも高い評価を得ております。

まさに、本校創設の理念を具現化すべく「日本一の女子高」をめざしてひたむきに励み、成果をあげて参りました。

これもひとえに、本校を今日まで築き上げてくださった多くの方々の献身的なご努力のおかげと、心から感謝を申し上げます。

そんな本校に、昨年度衝撃的な決定が県教育委員会においてなされました。二〇二二年度入学生からの男女共学化です。このような決定に至ったことを学校を預かるものとして大変申し訳なく思います。しかしながら、男女共同参画の一層進展するであろう今後のグローバル社会においても、力強くかつしなやかに生き抜ける女性を育成するという本校の使命を考えたとき、この決定を敢えて本校の将来の発展のためと、前向きにとらえたいと考えます。

本校の創設の理念はもちろん、第二高女、松原高校、宇都宮中央女子高として培ってきた教育理念や、積み重ねてきた伝統をしっかりと踏まえつつ、新たな価値を創造し、これからの不透明な時代を、リーダーとして力強く切り開き牽引していけるような、知力、体力、人間力を備えた人材を輩出できるよう、骨太の学校づくりをして参ります。

そして、先輩諸姉から、誇りを持って母校と言って頂ける、宇都宮市民はもとより、広く県民にとって魅力ある学校の実現を、ここにお約束をさせて頂きます。

さあ、生徒諸君、荣誉ある母校の創立九十周年を機に、諸君一人一人に強く望みます。伝統ある宇都宮中央女子高校で学んだという自信と誇りを胸に、

敢えて自らの意思による質の高い学びで教養も深め、決して易きに流れず、自己の内面を磨いて心も鍛え、決して見た目の派手さを追うことなく、見えない本質に迫ることができ、そんな頼もしい存在とならんことを。

そうして、本校での成長を礎にして、将来、自身と社会の未来を力強くひらいていってくれることを心から期待したいと思います。

結びに、本日記念式典を挙げるにあたり、多大なるご尽力を賜りました皆様方に、深く感謝の意を表しますとともに、本日ご臨席頂きました皆様には、今後とも、本校に対しまして、温かいご理解とご協力を賜りますよう、心からお願いを申し上げ、式辞といたします。

平成三十年十一月八日

栃木県立宇都宮中央女子高等学校

校長 日向野 勝